

心豊かな3学期を

学校長 杉森 伸吉

令和元年も8か月でしたが、それぞれのご家庭で、年の瀬とお正月も含め、心に残る出来事がたくさんありだったことと思います。昨年は「令和初」という表現をいたるところで耳にしました。令和2年になって耳にすることもなくなるだろうと思っていましたが、4月が終わるまでは令和初なので、令和初の3学期も、ご家庭、きくの子たち、そして教職員も心豊かに過ごせるように願っております。

2学期末に教員養成の国際化に向けた、国際連携プロジェクトのキックオフ会議で、ドイツに行って菊の園や学芸大や日本の教育の宣伝もいろいろしてきました。そこにはヨーロッパからはドイツ、チェコ、アイルランド、ポーランド、フィンランド、デンマーク、ロシア、スロバキアなど、中東からはヨルダン、アフリカ大陸からは南アフリカ、アメリカ大陸からはアメリカ合衆国、アルゼンチンなど、アジアからは日本、韓国、ベトナム、インドネシア、香港などからの教育関係者が集いました。世界的に見ても、日本の学校行事をはじめとする特別活動などは特徴的であり(菊の園は、特にそうです)、知育だけでなく、徳育と体育もバランスよく行い、人間形成の基盤づくりをするという考え方は、いろいろな国が「いいな!」と思っても、なかなか実現・定着させるのは難しいことなので、さまざまな国から見ても、素晴らしいことと思います。

前回の「きくの園」にも書きましたが、2月から3月にかけて、レネさん(Lene-Marie Rosa Reichert レネ・マリー・ローザ・ライヒャート)という教員志望の大学生がドレスデン工科大学から来ます。もともとは、日本のビジネスを勉強し、日本企業で働いていましたが、企業内でのコミュニケーションの密度には飽き足らず、人としっかりコミュニケーションできる教師の仕事をしたいという気持ちが強まり、会社を辞めて、教員養成コースに所属しています。日本語も上手ですが、菊の園にはドイツ人はいないので、ドイツ語のあいさつなどもせっかくだから覚えてみてはどうでしょう。「おはよう」がグーテンモアゲン(Guten Morgen), 「こんにちは」がグーテンターク(Guten Tag), 「こんばんは」(夕方・夜)がグーテンアーベント(Guten Abend), 「おやすみ」がグーテナハト(Gute Nacht)です。学校では、最初の2つで十分ですね。また、ドイツ人は地域ごとに独特なソーセージがあり、ソーセージ(ブアスト Wurst)のことわざもいろいろあります。Das ist mir Wurst(ダス・イストゥ・ミア・ブアスト It is a sausage for me)は、「そんなことは(ありふれたソーセージのように)どうでもいい」(ありふれた、当たり前のこと、取るに足らない)という意味です。逆に、「ここは(ソーセージ同様に)大事だから気合を入れよう!」というときも、Es geht um die Wurst(エス・ゲート・ウム・ディ・ブアスト It comes about the sausage)などといいます。言葉は生活を反映するので、生活を知ることは言葉を知ることもつながりますね。

3学期もそれぞれの菊の子たちにとってもご家庭や教職員にとっても、思い出に残る素晴らしいものになるようにと、願っております。

